

会員アンケートの結果を受けて

先に実施した会員アンケートを受けて、7月26日にアルカデイア市ヶ谷私学会館において、役員会を開催しました。
役員会では、アンケート結果を参考に、これからのふるさと応援団木島平会の方方向性を協議しました。

全体のアンケート結果は、裏面を参照してください

《検討事項と方向性》

①総会・新年親睦会について

「現状でよい」の意見が多かったため、総会1回、新年親睦会1回を基本とし今後も開催していきます。なお、会費についても、会場や料理の質を考慮すると現状維持という結果となりました。

②今後本会で希望する事業はありますか？

「ふるさと木島平村への帰省ツアー」が一番多かったため、ツアーの実施に向けて部会を編成し、実施時期や内容について検討を進めます。
なお、ツアー以外の事業についても、随時、役員会の中で検討をしてきます。

③創立10周年記念誌の発行有無について

賛成意見が約4割という結果となりました。話し合いの末、有料ではなく、作成側が負担にならない程度の形で無料の「概要版」を発行することとなりました。内容については、部会を編成して検討を進めます。財源については寄付や既存予算の範囲内で作成していきます。

④部会の編成について

次のとおり役員で部会を構成し、事業を進めていきます。

部会名	内容	部会員
会報部会	会報の発行に関すること	◎小林 建夫 高橋 邦子 高藤 貴視 寶井 護
記念紙部会	10周年の記念紙に関すること	◎小松 潔 小賀坂道邦 岡田 庸利 小池 脩一 森 則子
ツアー部会	帰省ツアーに関すること	◎岩下 富恵 湯本 信子 土屋 芳雄 高木 弘

藤原國平／中島今朝清

※◎は部会長

盂蘭盆会（うらぼんえ）

東京都江戸川区 小松潔（中町出身）

60年も昔の小さかった頃の記憶を綴ってみたいと思います。事実と相違あるいは思い違いなどありましたらご容赦願います。

さて、8月13日から16日にかけて仏壇にいろいろな物を供えて、死者の冥福を祈ります。

13日にはお墓と家の玄関前で「お盆、ござれ、ござれ、この火の明りでござれ、ござれ」と唱え、迎え火を焚き先祖さまから累代の霊をお迎えしたり、お花、果物など共にキュウリ馬とナス牛を作り仏前にお供えます。先祖さまたちの霊がお乗りになったのか、あるいは先導役となってお導きしたのでしょうか。近頃はスーパーなどで売っている盆飾り一式を代用してしまいましたが、あの頃の方が風情ありましたね。

お盆の間は日常の生活よりは少しはご馳走もあったと思われるですが、何を食べたのかまるで思い出せません。世の中全体が戦後復興途中の貧しい時代だったので、飽食の昨今とは比べものない食卓だったのでしょうか。

16日は送り火を玄関前とお墓で焚き「お盆帰れ、帰れ、この火の明りで帰れ、帰れ」と唱えて、先祖さまたちの霊をお送ります。何とも情緒・風情のある迎え盆、送り盆です。今もどの家でも同じように先祖さまたちの霊をお迎えし、お送りしていることとします。



盆踊り

15日の夕刻から小学校の校庭で、上木島民謡とフォークダンスを夜8時ごろまで踊ります。大勢の人出で踊りの輪が幾重にもできたことを記憶しています。

大龍寺では10時すぎまで「盆じゃもの」を、そのあと西町の公民館前で「薩摩踊り」を夜更けまで踊ります。まだテレビもなく娯楽の少ない時代、騒音についても、うるさくはありませんでした。

16日も「盆じゃもの」と「薩摩踊り」があり、浴衣を着た踊り手と見物をする人等、夏の一夜はあつと云う間に更けてしまいます。

当家も父親と養父が「盆じゃもの」の歌い手でした。父親の「盆じゃもの」がNHK長野放送局から放送されたと亡くなった先から聞かされていました。昭和三十年頃のことです。姉たちが多かったのですが、みんな踊りが好きで輪に加わりました。

二日間の盆踊りが終わると「あ、終わってしまった」と子供ながらも盆の終わりの寂しさを感じました。これで夏休みも終わるので。

今年は母の新盆でもありすこし早めに帰ってお墓の掃除や仏壇の飾り、盆提灯などを出して13日には霊をお迎えして冥福を祈りたいと思っています。



会報原稿募集中！

【送付先】

〒389の2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局
fax 0269の82の4121 kicho@jimadaira.jp まい

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。